

リンクスの 事業再生現場

レポート 第50回



(株) リンクス

宇都宮市西一の沢町8-22 栃木県林業会館5F
TEL : 028-634-5088
Mail : info@rincs.biz
URL : http://www.rincs.biz/

【景気回復に向けて】

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年、本稿にて、2013年を景気回復のスタートの年になることを期待したいと述べたと思います。皆様、景気回復の手応えを感じた年であったでしょうか？ TVニュースの街の声を聞くと、ボーナスアップで喜んでいる方もいれば、アベノミクスの恩恵は全くないと話す方など様々です。大企業と、そこに勤めるサラリーマンが、先行して景気回復を実感しているのでしょうか。

中小企業は、少し遅れて今年が景気回復を実感できる年になるはずですが。私共のクライアント先に目を移してみますと、昨年終盤から潮目が変わってきた感があります。円安、オリンピック効果、消費税駆け込み需要により、全体の需要が増加してきていることが要因と一般的に言われていますが、もう一つの側面があるように思えます。

クライアントの状況を分析してみますと、供給側の方の要因も大きいようです。従来は、供給過剰のために、売上を獲得するには熾烈な価格競争が避けられませんでした。異状なまでの長期に渡るデフレ状態は、資産背景のない中小企業の体力を奪っていったと思われます。国は、国内経済を支える中小企業のために各種施策を実施してきました。保証協会融資の拡充や、金融円滑化法による支援、各種補助金等、財務面での支援策は充実しています。しかしながら、これらは対処療法であり、市場環境の改善には繋がるはずがありません。

中小企業側では、事業を維持していくために、

リストラは避けられませんでした。新規採用を抑え、資産を処分し、固定費をギリギリまで削っていきました。しかしダンピング競争は収まることなく、いくらリストラを続けても、同時に利益が縮小していったりはリストラ効果も半減でした。新規の設備投資など何年も行ってこなかったと思われまます。中には、廃業していった同業者も少なくないと思います。結果として、供給側の縮小は想像以上に広がったと考えられます。

競争の厳しかった運送業界を例にしてみますと、価格ダンピングが進んだ上に、燃料価格の上昇を荷主に負担させることもできず、業界全体として収益力は大きく落ち込みました。本来であれば、運賃には、燃料費、人件費、それと車両の償却費相当以上をいただかなければ、安定経営はできません。自ずと、新規車両設備は削られることとなります。業界全体で徐々にトラック台数が縮小し、昨年終盤の頃より、需給バランスに変化があったようです。

運送業界にとっては、荷主への適正価格を再交渉する絶好のチャンスです。各種財務支援策とは、結局のところ、先に負担を延ばしているに過ぎませんので、どこかで大きく改善が求められることになるのです。改善が出来なければ、金融の面から、市場退場を宣告されてしまいます。

景気回復を取り込めるか否かは、それぞれの企業が業界環境を正確に把握し、自社のポジションを認識し、変化に対応する策をとっていかけるかに掛かっています。この1年、気を引き締めていきましょう。



〈著者プロフィール〉

代表取締役社長 佐藤 正人

昭和37年生まれ、大田原高校、新潟大学卒。

昭和60年足利銀行へ入行後、営業店、審査部門を経て平成16年退社。

在職中の事業再生の経験を活かし、平成18年栃木県で初めての事業再生専門のコンサルティング会社である(株)リンクスを設立し代表者に就任。以来地元中小企業の多くの事業再生を行っている。